

第十八節 昭和十五年

① 昭和十五年度東京美術学校概算要求

本年度概算要求に關し、次の記録文書が現存する。

昭和十五年東京美術学校概算要求事項別表

一般會計

事項	明細書		備考
	丁数	増減要求額	
營繕ニ関スル經費	一	〇	
一、御眞影奉安所新營	三	四、五〇〇	
二、図畫師範科教室新營	五	二六、九五〇	
三、工藝研究所新營		一〇〇,〇〇〇	
増加要求額合計		一三、四五〇	
減少額		〇	
差引額		一三、四五〇	

事項	明細書		備考
	丁数	増減要求額	
一、図畫師範科学年延長ニ伴フ經費	九	一六、四七五	
		〇	
		一六、四七五	後年度經費増加額

事項	昭和十六年度	昭和十七年度	昭和十七年度所要完成年度所要額
二、日本画科南宗画教室設置ニ要スル經費	一三、三、四六五	〇	一三、三、四六五
三、版画教室設置ニ要スル經費	一五、九、四〇〇	〇	一五、九、四〇〇
四、工藝研究所新設ニ要スル經費	一九、七〇,〇〇〇	〇	一九、七〇,〇〇〇
五、予算不足ヲ補充スル經費	二三、一〇,〇〇〇	〇	二三、一〇,〇〇〇
減少額	〇	〇	〇
差引額	一〇、三、三〇	〇	一〇、三、三〇
収入金	〇	〇	〇
維持資金	〇	〇	〇
右財源ニ政府支出金	一〇、三、三〇	〇	一〇、三、三〇

昭和十四年度東京美術学校概算要求増減額事項別明細書

一般會計

營繕ニ関スル經費

一、御眞影奉安所新營

御眞影ハ從來庶務係金庫ニ奉護シ置キタルモ不時ノ災害ヲ慮シ現在ハ鉄筋コンクリート建倉庫内金庫ニ奉遷シ、祝祭日等ニハ大講堂ニ安置シ諸式ヲ取行ヒ来タルモ此際新タニ奉安所ニ設置

シ常ニ職員及生徒ヲシテ皇室崇敬ノ念ヲ一層深カラシメ教育上ノ実効ヲ挙ゲント欲シ之ガ新營ニ要スル左記経費ヲ要求ス

區分	金額	備考
臨時費	四、五〇〇	
營繕費	四、五〇〇	
御眞影奉安所新營費	四、五〇〇	
新營費	四、五〇〇	
御眞影奉安所	區分	鐵筋コンク
延坪數	〔坪〕	一、五
單價	三、〇〇〇	
金額	四、五〇〇	

二、圖畫師範科教室新營

昭和六年文部省訓令ニ基キ各中学校ニ作業科ヲ設ケラレタリ之ニ要スル教員養成ニハ本校圖画師範科ニ於テスルヲ最モ経済的ニシテ且ツ適當ナルモノト信ズ 即チ工作ニ関スル授業ハ現在手工教員養成機關ノ一部ヲ擴張シ之ニ園藝ニ関スル授業ヲ加フレバ完全ナル作業科教員養成ノ目的ヲ達スルヲ得ベク尚ホ現在ノ修業年限三ヶ年ヲ四ヶ年トシ一ヶ年延長スルニ於テハ修身教育モ擔任シ得ル如ク（東京高等師範学校図畫手工專修科ハ修業年限三ヶ年ナルモ修身教育ノ免許狀ヲ附與ス）授業シ得ルナリ 茲ニ於テ作業科教室及講義室ノ新營ヲ要シ左記経費ヲ要求ス

區分	金額	備考
臨時費	二六、九五〇	
營繕費	二六、九五〇	
師範科教室新營費	三、九五〇	
新營費	三、九五〇	
附屬工事費	一、〇〇〇	
設備費	三、〇〇〇	
名稱	內譯	延坪數
工作教室	木造二階建	七
油繪教室	〃	四
普通教室	〃	三
作業室	木造平家建	三
園藝實習室	〃	三
附屬雜建物	〃	五
給水、配水、瓦斯、電気裝置	〃	一
器具類	〃	一
單價		
金額		

三、工藝研究所新營

輓近吾邦諸工藝ハ急速ナル発達ヲ遂ケ一國ノ文化ト経済トニ寄與スル所尠カラザルモ未ダ欧米諸國ニ比シ遜色アルモノアルガ如キハ一ニ之ガ研究機關ノ完備セザル所以ナリ

昭和初年ニ於テ先ヅ商工省此点ニ意ヲ致シ諸般ノ事情ヲ調査シテ樞要ノ地方ニハ工藝指導所或ハ陶磁器試驗所等ヲ新設シ尚各府縣ニ於テモ金工漆工木工図案等ニ関スル試驗所ヲ設置シテ斯道発達ノ促進ヲ奨励シタルハ欣快ニ堪エザル所ナリ 然レ共之等ハ多ク

産業的ニノミ指導奨励シ之ガ基本タル独創的藝術的方面ハ比較的
 閑却セラレタル傾アリテ識者ノ等シク遺憾トスル所ナリ 然レバ
 以上ノ欠陥ヲ補ヒ時局下ニ於テハ輸出工藝増進ノ基本的研究或ハ
 傷痍軍人ノ保護等ヲ併セ顧慮シテ日本文化ノ表徴タル美術工藝ニ
 関スル綜合的調査研究ノ諸機構ヲ整備シタル工藝研究所ヲ新設セ
 ントス 幸ヒ本市内ニ一筆四千坪ノ擴大ナル土地ヲ同研究所新設
 ノ爲寄付申出ノ特志家アレバ好機逸スベカラズ 此際是非共其実
 現ヲ期セント欲シ左記經費ヲ要求ス

區分	金額	備考
臨時費	100,000	内 譯
營業費	100,000	
工藝研究所新營業費	100,000	
新營業費	140,000	
設備費	55,000	事務所 學術部研究室 技術部研究室 作業場
付帶工事費	5,000	給水、排水、 換氣、瓦斯、 電氣、裝置
		木造 平家建
		延坪數
		單價
		金額
		五、〇〇〇

特別會計

圖画師範科學年延長ニ伴フ經費

近時各種中等教育ノ制度ニ著シク改正ヲ加ヘラレ特ニ中学校ノ如
 キハ甲種乙種ノ別ヲ設ケ図画科ノ配當時數ニ相当変更ヲ見ルニ至
 レリ スクノ如クナレバ之ガ教員養成機關タル本校図画師範科ニ
 於テモ充分此点ニ留意シ常ニ之ニ適應スル理想的教員ノ養成ニ努
 カシツツアリ 而シテ近來中学校ニ於テハ作業科トシテ工作園藝
 等ノ授業ヲ為シツツアル狀態ニ鑑ミ之等作業科担任教員ハ本校図
 画師範科ニ於テスルヲ最モ時機ニ適シタルモノト信ジ從來ノ修業
 年限三ケ年ヲ四ケ年トシ東京高等師範學校図画手工專修科（修業
 年限三ケ年）ノ如ク修身教育ニ関スル授業ヲモ担任シ得ル如ク改
 正セント欲シ左記經費ヲ要求ス

區分	金額	備考
經常費	16,755	内 譯
學校及圖書館俸給	10,005	
		奏任俸給
		教授二人 平均年額 三,〇〇〇円 四,六〇〇円
		判任俸給
		助教授三人 平均年額 九,五〇〇円 三,九五〇円
		書記一人 〃 八,〇〇〇円 八,〇〇〇円
		講師給
		講師二人 〃 六,〇〇〇円 一,一〇〇〇円

校 館 費		六四七〇
右財源	収入金	〇
政府支出金	一六、四七五	
図書及印刷費	五〇〇円	
消耗品	用紙、瓦斯及電氣料等	五〇〇円
実験費	工作材料、肥料等	一、五〇〇円
給與	慰勞金	五〇〇
雇員給	雇 三名	一、八〇〇
備人料	農夫一名、小使一名	七〇〇
被服費		五〇
雜費	土地借料	五〇〇

日本画科南宗畫教室新設ニ伴フ經費

現代我國ノ画風ヲ掃納スレバ之レヲ南宗畫及北宗畫ノ二流派トナス 而シテ之等ハ地理的及歴史的影響ヲ受ケテ前者ハ温潤和雅ノ風趣ヲ備ヒ後者ハ剛健爽直ヲ表シ夫々其ノ妙味ヲ傳ヘ來リ直チニ宗ノ南北ニ依リテ其ノ優劣ヲ論ジ得ザルハ言フ俟タザル所ナリ 然レ共古來ヨリ我國一般人士ノ嚮望一層切ニシテ尚且ツ中正和平ノ道ニ合スルハ南宗畫ニアリト謂フモ敢テ過言ニアラザルナリ 其ノ正派ノ傳フル筆法氣韻ニ至リテハ実ニ東洋美術ノ眞隨トモ云フベク本校日本畫科ニ同教室新設ノ必要ヲ痛感スルモノナリ 茲ニ於テ之ニ要スル左記經費ヲ要求ス

區 分	金額	備 考
經常費	三、四四五	
學校及図書館俸給	三、四四五	内 譯
右財源	収入金	〇
政府支出金	三、四四五	
		奏任俸給
		教授一人 平均年額三、四八〇円 三、四八〇円
		判任俸給
		助教一人 〃 六、五〇円 六、五〇円

版畫教室設置ニ要スル經費

版畫ハ其ノ技術的の工程ヨリ生ズル固有ノ表現効果ヲ以テ他ノ手法ニヨリテ為シ能ハザル特種ノ藝術的價值ヲ有シ美術ノ一分科トシテ重要ナル領域ヲ占ムルモノナリ 然ルニ其ノ技法タルヤ特種ノ習熟ヲ必要トシ且ツ其ノ効果ハ一般絵画ノ自由暢達ナル領域ニ比シ寧ロ簡素小規模ナル趣旨ヲ旨トスル故ヲ以テ現代ノ時流ニ於テハ比較的閑却セラレ易ク一部特志ナル研究者ノ間ニ於テ試ミラル程度ニアリ 特ニ我美術ノ誇リトスル日本木版画法ノ精技ニ至リテハ其ノ技法ヲ嗣グモノ寡ク其ノ衰滅ヲ見ルノ惧レナシトセズ之レヲ保護奨励シ在來ノ技術ノ傳統ヲ傳ヘテ一ニハ本邦木版画法ノ存続ト其ノ新タナル發展ニ資シ他方西邦ニ於テ發達練磨セラレタル技法ヲ傳ヘテ現代ニ於ケル美術制作上新タナル分野ヲ拓ク

等版画ニ就テ其ノ發展改善ノ途ヲ講ズルコトハ現代美術教育上ノ急務ニシテ之レガ爲ニハ版画ニ関スル技法ノ正則ナル傳習機關ノ設置ヲ以テ其ノ基礎要件トナスコト言フ俟タザル所ナリ 本校ニ於テ之レガ施設ヲ行フハ最モ時宜ニ適シタルモノト云フベク豫テヨリ其ノ必要ヲ認メ版画科ノ設置ヲ計畫シ来ルモ容ル、所トナラズ甚ダ遺憾トスルモノナリ 然ルニ雨潤會ヨリ版画研究費トシテ昭和十年度ヨリ三ヶ年間に亘リ金九千圓ノ寄附金ノ交付ヲ得タルヲ以テ最モ簡易ニ実施シ得ル日本版画法及エツチングノ二種ヲ選ビ臨時版画教室ヲ設置シ各科生徒ノ兼修ヲ許可シタリ 而シテ現在非常ナル好成績ヲ挙ゲツアルヲ以テ十二年度ヲ以テ限リトスル寄附金ヲ昭和十三年度ニ於テモ引続キ交付ヲ受クルノ運ビトナリタルモ本年度ヨリハ是非一般校費ヲ以テ支弁セザルベカラズ依ツテ之レニ要スル左記経費ヲ要求ス

區分	金額	備考
經常費 學校及圖書館 俸給	九四〇〇 六、九三〇	內 譯
校館費	二、四〇〇	內 譯
		奏任俸給 教授二人 平均年額二、四〇〇円 四、九〇〇円 判任俸給 助教授二人 “ 九五〇円 一、九〇〇円 講師給

右財源	収入金	備品費	器具雜品類
政府支出金	九、四〇〇	圖書及印刷費	三〇〇
		消耗品	一〇〇
		實驗費	五〇〇
		給與	五〇〇
		備人料	七〇〇
		被服費	五〇
			慰勞金及 小使一人 給仕一人

工藝研究所設置ニ要スル経費
本研究設置ノ事由及目的ハ一般會計臨時部營繕費要求ノ場合ト同一ナレバ玆ニ重ねテ説明ヲ要セザルモ尚事業ノ内容並組織ヲ概説セントス 即チ大別スレバ、總務部學術部及技術部ノ三部トシ工藝資料ノ考証、特種技法ノ保護、輸出工藝ノ振興ト代用材料ノ試作、工藝技術ノ臨時傳習並大陸政策ニ順應スベク滿支方面ニ於ケル東洋工藝ノ調査並研究等各分科ニ於テ調査研究シ美術工藝ニ関スル綜合的機關ニシテ時局下緊喫ノ事項ニ属シ是非其本年度ニ於テ實現ヲ期シタク之レニ要スル左記経費ヲ要求ス

區分	金額	備考
經常費 工藝研究所 俸給	七、〇〇〇 二、四八〇	內 譯

事務費		平均年額
奏任俸給	所員五人	三、四〇〇円
判任俸給	書記二人	一、七〇〇
技手一二人	〃	一〇、六〇〇
備品費		一、〇〇〇
図書印刷費		一、〇〇〇
消耗品		二、五〇〇
通信運搬費		五〇〇
実験材料費		三、〇〇〇
各所修繕		五〇〇
国内旅費		一、〇〇〇
給與	慰勞金 五、八〇〇 嘱託五人 三、〇〇〇	八、八〇〇
雇員給	三人	一、八〇〇
傭人料	職工三人 月八〇年六、二〇〇 其他三人 月四、八〇〇	二四、〇〇〇
被服費	三人 月五	四、五〇〇
雑費		五、五〇〇
事務費		五、一五〇

經常部予算不足ヲ補充スル經費

俸給

本校ハ美術ニ関スル本邦唯一ノ学府ニシテ各部科ノ数モ多ク從ツテ多數専門的學者及技術家ヲ講師トシテ嘱託シアル状態ナリ 現在ニ於テモ其數二十四名ニシテ内無給四アルモ此ノ手当年額壹万

七千貳百七拾圓ノ多額支出ヲ要スル故ニ現予算額五千貳百五拾參圓ニ此スレバ尚壹万貳千余圓ノ不足ヲ生ズル現狀ナリ 此不足額ハ全ク他目ヨリ流用支弁セザルベカラザルモノニシテ教官ノ昇級等ハ全ク絶望ノ現狀ニアリ 依ツテ本年度ヨリハ經常部ニ於テ左記經費ヲ増額令達セラル、様切ニ希望スル次第ナリ

區分	金額	備考
學校及圖書館	10,000	
俸給	10,000	
講師	10,000	

(「工芸指導員養成所設置ニ関スル概算書類」収録文書より転載)

② 職員その他(「任免関係原議綴」その他による。)

昭和十五年

一月二十二日 矢崎好幸はセメント美術授業担任講師を嘱託される。

同月二十五日 教授兼生徒主事森田亀之助は臨時セメント美術教室主任兼務を、書記筒崎謙斎、同北浦大介、同宮本純一、同佐藤重吉は同教室事務取扱兼務を命ぜられる。

同月二十七日 講師関野克は東京帝国大学助教に任命される。

二月十二日 二月十一日紀元節拜賀式後記念講演を依頼した中村孝也に謝儀として本校より三十円贈与。

三月二日 名誉教授正木直彦死去。